

施策評価表(平成19年度の振り返り、総括)

作成日 平成 20 年 4 月 30 日

施策No.	26	施策名	文化の振興
主管課名	生涯学習課	主管課長名	田村 清信
関係課名	図書館、歴史民俗博物館、水族館、埋没林博物館		

施策の目的 【対象】	市民	対象指標名	単位	17年度	18年度	19年度
		人口	人	46,913	46,723	46,459

施策の目的 【意図】	・芸術文化活動に数多く触れ、教養を高める。 ・郷土の文化財・伝統文化に愛着と誇りを持つ。	成果指標名	単位	17年度実績	18年度実績	19年度実績	22年度目標
		芸術文化活動に触れて、教養が高まったと感じる市民の割合	%	未調査	12.4	15.5	20.0
		芸術文化に関心を持ってイベントに参加する市民の数	人	(6,952)	(7,479)	(7,384)	(7,500)
		芸術文化活動に取り組んでいる人の数	人	(1,203)	(1,115)	(1,072)	(1,100)
		郷土の歴史、伝統、自然に育まれた文化が豊かだと感じている市民の割合	%	37.3	29.4	27.3	45.0

成果指標設定の考え方	市民意識調査により、芸術文化活動に参加して、教養が高まったと感じる人がどれだけいるかを見ることで、市民全体の教養の高まり度合いを類推できるので、これを成果指標とした。 芸術文化に参加している人の数を見ることで、芸術文化に関心を持っている人の大きさを把握できるので、これを成果指標とした。(参考数値:市文化祭、市美展入場者数) 文化団体等に参加し、芸術文化活動に取り組んでいる人の数を見ることで、市民の教養の高まりの程度を判断できるので、これを成果指標とした。(参考数値:文化協会会員数) 市民意識調査による、いわゆる満足度、納得度を採用した。数値が高まれば、郷土への愛着と誇りが高まったと考える。
------------	---

成果指標の把握方法(算定式など)	企画政策課が実施する市民意識調査により把握。 生涯学習課の資料により把握。(現状では、一部数値のみ把握している項目である) 生涯学習課の資料により把握。(現状では、市文化協会加入者数等一部数値のみ把握している項目である) 企画政策課が実施する市民意識調査により把握。
------------------	--

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	市民	・文化の振興は、あくまでも市民一人ひとりの意識と参加によってもたらされるものであり、積極的に芸術文化活動に触れたり、参加していただく。 ・市の文化財、伝統文化に関心を持っていただき、将来に伝えていただく。
	行政	・文化施設等の情報提供や文化事業への支援に努める。 ・文化財、伝統文化の保存、情報提供、それらに触れる機会の提供などを行う。
	その他	

施策No.	26	施策名	文化の振興
19年度の 評価結果	1. 施策の成果水準とその背景(近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること)		
	ア. 成果水準の推移(成果水準がここ数年どのように推移しているかを中心に記述) 文化芸術活動に触れ、教養が高まった割合は、12.4%から15.5%と若干増加している。 郷土の歴史や伝統が継承され、自然に育まれた文化が豊かである人の割合は、29.4%から27.3%へ減少している。 市文化祭、市美展の入場者数は、微減、市文化協会会員数は、減少している。		
	イ. 近隣他市との比較(成果水準が近隣他市と比較してどうであるかを中心に記述) 新川文化ホールと天神山交流館等の文化施設があり、その中で行われている文化芸術活動は、近隣他市、同規模市と比較しても充実している。		
	ウ. 住民期待水準との比較(成果水準が住民が期待していると思われる水準と比較してどうであるかを中心に記述) 芸術文化は、多種多様であるため、市民個々の興味のある部門の期待水準に比べ、行政が全般的に行っている成果は、市民個々が思っている期待水準と比較して低いかもしれない。 (美術の人は、美術のこのことのみ考え、音楽の人は音楽のこのことのみを考える傾向がある。)		
	2. 施策の成果実績に結びついているこれまでの主な取り組み(事務事業)の総括 (ここ数年の間、施策の成果向上に貢献してきた主な事務事業の取り組み内容を中心に記述) 【文化芸術に触れ教養を高める】 ・小中学生に文化芸術に親しんでもらうため、新川文化ホールでの芸術鑑賞や伝統芸能、音楽鑑賞を実施している。 ・たてもんボランティア募集により、郷土の伝統を守るという意識の向上を図った。 ・音楽の街づくり事業による小中学校、公共施設への出前演奏		
	3. 施策の課題認識及び20年度の取り組み状況(予定) (19年度末で残った課題、既に20年度に取り組んでいること、又は取り組むこととしている予定を記述) 【文化芸術に触れ教養を高める】 ・気軽に展示できる場の提供(天神山交流館の活用) 【文化財の保全】 ・「米騒動発祥の地」の「米蔵」の保存・市文化財指定		

施策の トータル コスト	区 分	単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	21年度実績
	A. 本施策を構成する事務事業の数	本数	12			
B. 事業費(事務事業の事業費合計)	千円	112,358				
C. 事務事業に要する年間総時間	時間	6,500				
D. 人件費(C×1時間あたりの平均人件費)	千円	26,715				
E. トータルコスト(B+D)	千円	139,073		0	0	0
効率性 指標	対象(受益者)1単位あたり、若しくは市民1人あたりの施策の					
	F. 事業費(定義式: B/46,723)	円	2,405			
	同上 G. 人件費(定義式: D/46,723)	円	572			
	同上 H. トータルコスト(定義式: E/46,723)	円	2,977			